

株式会社TACSしべちゃにおける 哺育牛管理の取り組み

釧路営業所 日下部 祐貴

株式会社 TACSしべちゃ (標茶町)

日頃より当社製品をご愛顧頂き、心から厚くご御礼申し上げます。今回は、JAしべちゃと標茶町および当社が共同出資し、運営している(株)TACSしべちゃの哺育管理をご紹介致します。(株)TACSしべちゃでは、11月までカウハッチを利用した管理体系でしたが、昨年12月より旧分娩用牛舎を哺育牛舎に改修し、哺乳ロボットを導入した管理に移行しています。

○徹底した環境管理

現在、生後1週間までの牛群と生後2か月までの牛群の2つに分けて管理しております。

群飼いになるということもあり、管理は非常に細やかな対応が取られております。図1は現在の(株)TACSしべちゃでの哺育牛管理で心掛けていることの一例です。

- ◆ 昼夜の温度差の低減
 - 夜：加温機や遠赤ヒーターが入った小屋(写真1)の設置
 - 昼：昼間は扉やカーテンを開けて換気を行う
 - カーフジャケットは昼間脱がす
- ◆ こまめな掃除の実施
 - 施設の掃除は週1回、麦稈は毎日新しいものを加える
 - 牛の頭の高さで臭いと感じたら掃除を実施
- ◆ 下痢対策
 - 哺乳ロボット(写真2)の乳頭は1日3回洗浄
 - 下痢した牛には糞が固くなるまで電解質を給与する など

図1. 哺育牛舎での取り組みの一例

現在、哺育牛の管理をされている五十嵐トレーナー(写真3)は「子牛の目の高さで仕事をするのが大切、子牛の高さで臭いと感じたら掃除をし、空気がこもってきたと感じたら換気をする」と仰っております。現在の取り組みになるまでは試行錯誤ありましたが、死亡牛は大きく減ったようです。

○(株)TACSしべちゃについて

昨年4月より稼働しました(株)TACSしべちゃですが、昨年も積極的な草地更新や、当社の使用管理技術

を活用して頂き、着実に結果を残しております。今後も(株)TACSしべちゃにはご協力いただき、取り組みなどの情報をお客様に還元し、経営改善に寄与する一助となれば幸いです。最後に今回快くインタビューを引き受けて頂いた(株)TACSしべちゃの五十嵐様に誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。



写真1. 遠赤ヒーター入りのビニル樹脂の小屋(可動式)



写真2. 哺乳ロボット(弊社製品、まるまるみるく使用)



写真3. 作業をする五十嵐トレーナー